

薬剤師が「患者の口を見る」

受診勧奨プロセス学ぶ



ペンライトを用いた口腔内観察

参加者は、MRONJの予防に薬剤師が介入していくためのプロセスを学んだ。薬局窓口に骨粗鬆症患者が処方箋を持つ場面

「歯茎が腫れています」

日本口腔ケア学会学術大会が16、17の両日、松本市内で開かれ、薬剤師部会企画では骨粗鬆症患者に対する薬剤関連顎骨壊死(MRONJ)の予防に向け、薬剤師介入を支援するセミナーが開催された。参加した薬剤師は、ペンライトやデンタルミラーによる口腔内観察を体験。2人1組となり、来局した患者の口腔内観察から歯科受診へと導くロールプレイも実践した。薬剤師が口を見ることにより、患者の行動変容につながる重要性を確認した実習となった。

口腔ケア学会薬剤師部会

薬剤師部会企画には約30人の薬剤師が参加した。患者の未病をキャッチし、治療へとつなぐゲートキー

前の予防介入が重要となる。

薬剤師から患者に対しては、治療開始前から予防的な口腔管理を促すと共に、1年以内に歯科受診歴がない、かかりつけ歯科医がい

療歴のある患者でない、咀嚼に何らかの問題で発症が報告さ

を想定した実習で、薬剤師役と患者役を演じた。症例となる患者は81歳の女性。転居に伴い新規来局し、今後かかりつけを希望している。高血圧症、心疾患、骨粗鬆症、腰椎骨折の既往歴があり、リクシアナ、エソメプラゾール、ピソプロロール fumarate、ピデンタスチュアアル配合錠が処方されている。

薬剤師役は、患者役を相手に骨粗鬆症の治療歴や歯科受診歴の確認などの情報収集を行い、口腔内症状がないかスムーズに話題を展開した。

重要となるのは、「症状を見逃さない」「患者に気づかせる」「行動に結びつける」というプロセスを踏んでいるかどうかだ。例えば、MRONJを分かりやすく簡潔に説明できているか、不安を煽りすぎているか、

山浦克典部会長は、「患者は口の中には関心があっても聞かれない」と述べ、薬剤師から聞いてもらう必要がある。ぜひ、明日からの業務に役立ててほしい」と述べ、薬局での口腔ケアの実践を呼びかけた。

「ね」。検査というよりも、患者に気づきを与えるための観察という意味合いが強い。口腔内を観察して説明することで患者への説明力が増し、行動変容につながるという。薬剤師役は、患者の理解を確認した上で歯科受診を勧めた。

デンタルミラーを使った口腔内観察も実践した。ペンライトのみによる口腔内観察の手法に比べると、アドバンステクニックに位置づけられ、奥歯の頬側面や下顎の舌側面など、より細かな観察が行えるのが利点だ。口腔内にペンライトを当ててデンタルミラーを動か